

1

昭和54年1月1日

第140号

編集と発行

鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号 〒892

市役所でのんわ ② 1111

かごしま 市民のひろば

市の人口(推計)

(53.12.1.)	(前年同月比)
人口総数 487,834人	(+ 8,663人)
男 231,430人	(+ 4,408人)
女 256,404人	(+ 4,255人)
世帯数 160,573世帯	(+ 2,603世帯)



平川動物公園



市議会議長 稲葉茂成

あけましておめでとうございます
すがすがしい元旦を迎え身も心もひきしまる思
いがいたします

鹿児島市は今や人口四十九万を数え全国でも
十九番目の都市に発展し今年は市政施行九十周年
の輝やかしい年を迎えます

自由と平和のもとにわたくしたちは恵まれた
自然の中で心の豊かな人間性まちづくりを目指
し今年も市民の皆さまのご
協力のもとに前進してまいり
たいと存じます

年頭にあたり皆さまのご多
幸と市政のあらたな躍進を願
つてございさつといたします



市長 山之口安秀

紀をたくましく生き抜き 豊
かでうるわしい鹿児島市の発展
のために今年も皆さまの変わ
らないご精進とご協力をお願
いいたします

間もなくやつてくる二十一世
紀をたくましく生き抜き 豊
かでうるわしい鹿児島市の発展
のために今年も皆さまの変わ
らないご精進とご協力をお願
いいたします

(とじておきましょう。)



行政の取り組み

同和シリーズ

大正三年桜島大爆発から65年

1月12日

教訓を生かし総合防災訓練

桜島火山は、相変わらず活

躍する一方で、老後の生活設計

が、若いうちから考えておく

必要があります。

そのためにも、二十歳にな

ったのを機会に、「國民年金」

に加入しましょう。

血液の需要は、交通事故や

労働災害など、大量の輸血を

必要とする病気などの増加に

満二十歳になると、國民年

金に加入できます。

若い人は、とかく「老後な

いままだ先の話」と思

がちで、ようが将来受け取る

年金は加入が早ければ早いほ

ど有利なのです。

今後老人の占める割合は増

える一方で、老後の生活設計

が、若いうちから考えておく

必要があります。

そのためにも、二十歳にな

ったのを機会に、「國民年金」

に加入しましょう。

成年になった記念に、ボラ

ンティア活動に参加しようと

公によって加入できます。

昭和五十二年度は、全国で

四百五十万人が献血に協力し

めたいのが「愛の血液たす

けあい」一献血です。

わが国の輸血用血液は不足

がちなのです。

そこで、桜島を再生産する悪循

環をくり返しています。

そこで、部落差別な

と、心理的の差別があります。

この両者ががいにからみあ

て、差別を再生産する悪循

環をくり返しています。

これらの方は、部落差別な

と、心理的の差別があります。

この両者ががいにからみあ

て、差別を再生産する悪循

環をくり返しています。

そこで、部落差別な

と、心理的の差別があります。

この両者ががいにからみあ

て、差別を再生産する悪循

環をくり返しています。

家族そろって明るいお正月

かごしま 正月の暦

〔1月1日〕初詣 年の神を神社に迎えに詣でるもの。元旦の朝は、どこの神社でも、賑わいを見せていますが、江戸時代の頃は鹿児島五社といつて、上町一帯にある諫訪神社、八坂神社（現在は平之町にある）、稻荷神社、春日神社、若宮神社を巡拝したものだそうです。

また、若水といって年男が新しい柄杓で水を汲み、若水に丸餅を入れ、その沈み方で年占らないをしたと伝えられています。

お正月の挨拶にお年寄りの方は今でも「若こおないやしつろ（若くおなりになったでしょう）」と言って年賀を交していらっしゃる様です。これは若水を使って、人は若返るという考えが今でも残っているからでしょう。

『正月礼（しょうがつで）』といふのは夫婦そろって正月の2~3日頃親元をたずねることをいい、一緒にごちそうをいたたく習わしがあるようです。

〔1月2日〕初夢 元旦の夜寝る時に枕の下に宝船の絵をしいて、よい夢を見るよう祈ったといわれています。お年玉は、本来は年男から正月の餅をもらうものであったと言われていますが、今では子どもたちの楽しみの一つと変わっています。

〔1月4日〕仕事始め 商店では初荷を開き初商合戦が盛んです。

〔1月7日〕七草 この日に七草がゆを食べると年中の疫病を防ぐと言われ、七歳の子どもが七草がゆをもらって、七軒の家をめぐる風習は今でも残っています。

〔1月11日〕鏡開き 正月の終りを意味し、お飾りの餅をおろし、せんざい等をして食べる習わしは今も残っている様です。

最近のお正月は、バドミントンやトランプ、オセロゲームなど当世風の遊びが幅をきかせ、羽根つきやコマまわしなど正月らしい遊びを見る機会が少くなりました。テレビもなく子どもたちが寄り集まつて「陣取りだ」「石けりだ」といって遊んだ少年時代、周囲にあるものは路邊の石ころさえ遊び道具であり、そこには遊びを創造する子どもの誇りと喜びがあつたようです。テレビが普及し、ぜいたくな既製のおもちゃが氾濫している昨今、ともすれば、昔からの遊びは、忘れ去られてしまいがちです。しかし、そう捨てたものではありません。最近は、とみにこれらの遊びの良さ（連帶性、創造性）が見直され、たこあげなどはブームとなっているくらいです。そこで、今月は新春にあたり、子どもの遊びの代表格ともいえるお正月の遊びのいくつかをご紹介いたします。

今年のお正月は、家族と一緒にこれらを楽しみ、コミュニケーション不足といわれる最近の親子ふれあいの場として、利用されてみてはいかがでしょうか



◆絵 双 六

手書きで、こののっぺらぼうの顔に、目や鼻などを置いて描きます。②これとは別に厚紙で、眉、鼻、口、耳などを描きます。

〔遊び方〕 目かくしをして

手さぐりで、こののっぺらぼうの顔のそれぞれの位置のとんちんかんさが笑いをさせます。

〔遊び方〕 読み手が上句を

読み、下句を書いた取り札

を作ればできあがりです。

〔遊び方〕 目かくしをして

手さぐりで、こののっぺらぼうの顔に、目や鼻などを置

いて描きます。

〔遊び方〕 読み手が上句を

読み、下句を書いた取り札

を作ればできあがりです。

〔遊び方〕 目かくしをして

手さぐりで、こののっぺらぼうの顔のそれぞれの位置のとんちんかんさが笑いをさせます。

〔遊び方〕 読み手が上句を

読み、下句を書いた取り札

を作ればできあがりです。

〔遊び方〕 読み手が上句を

